


ふりがな 氏名	いわぶち やすし	都道府県	岡山県	
	岩淵 泰			
所属/肩書	岡山大学地域総合研究センター／助教			
私の ESD活動	まちづくり実践型教育 ー若者が地域と対話するまちー			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

ESD 活動として、日本人学生と留学生が、地域住民と信頼ある対話を通じたまちづくり実践型教育を行っている。特徴として、学生が、大学内での、講義だけではなく、学外のまちづくりに参加することで、地域の潜在的課題や生活の知恵を掘り越していくことが挙げられる。私は、「若者が地域と対話するまち」を目指して、文部科学省留学生拠点整備事業「留学生のまちづくり」、岡山大学・西川緑道公園賑い調査のプロジェクト・リーダーとして活動している。

(1) 留学生のまちづくり事業

2012 年度、産官学の地域コンソーシアムを立ち上げ、留学生の生活、学び、就職を一貫してサポートし、岡山の友好親善大使を育てるプログラムを作成した。2013 年 6 月 9 日には、日本人学生、留学生、サポーターの 100 名と共にオカヤマ・ウェルカム・ピクニックを開催した。参加者は後楽園の歴史を学んだ後、岡山城や出石町でまち歩きをし意見交換をした。

(2) 西川緑道公園賑い調査

2012 年度から、西川のまちづくりとその変遷について調査している。学生は、歴史ヒアリングやモニタリングを行い、まちづくりが持続的に展開するためのアイデアを提示している。

独創性: 信頼のある対話

独創性は、大学、学生、地域が、学びの連携からまちづくりのパフォーマンスを高めることである。大学と地域の対話が、双方の発展を促し、岡山全体を学びのキャンパスに変えていくものである。

革新性: 地域の持続性を明らかにする

革新性は、学生が、持続的なまちに必要なことを議論し、探究心や創造性を磨くことで、暮らしやすいまちづくりへと発展することである。その他、学生は、ESD による気づきを、環境学、経済学、工学、農学、医学などのそれぞれの専門性から分析し、地域の持続性を明らかにすることである。

成果: 学びのまちづくり

成果は、学生が地域の課題や魅力を発見し、地域を持続的に運営する民主主義のトレーニングを積むことである。

・アゴラ日記: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/agora/index.html>

・歩きたくなる西川などの執筆: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/agora/publicity/index.html>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

若者は、日本から世界へ学びのまちづくりを繋げていく役割がある。これから ESD を発展させるには、多様性の中で個性を磨いていく市民教育が必要である。何故ならば、変化の激しいグローバル社会の中で、多様性は豊かな社会の基盤となるが、市民は、様々な意見や利害のバランスを取りながら、しっかりとした個を持たなければならないからである。

その中で、若者は、個性を深めながらも、地域への窓も閉ざされていない市民性を持ち、グローバルな連帯を深めていく必要がある。続けて、若者は、持続性を感じるだけではなく、その持続性を磨き、自分の意見として表現することが必要となる。ESD の本質は、既存の教育カリキュラムによる専門的知識の伝達では届きにくい教育を担っていることである。それは、倫理、感性、創造性など共生社会を志向するヒューマニズムである。若者による ESD の貢献とは、暮らしの中で学び続ける姿勢を持つことと言える。